

## 大分支店

### 公庫が事務局を務める 地域のお客さま交流会

お客さまの交流事業として開催している「国東会」に、県北部・東部地区の農業法人や食品企業11社が参加しました。

第1部では、宇宙船などの産業用機械・金属加工を手掛けるニシジマ精機株式会社(佐伯市)代表取締役の西嶋真由企氏が登壇。事業内容や今後の経営戦略などについて話しました。第2部の意見交換会では、各社から近況報告をおこない、業種ごとの最新情報が提供されました。両部ともに質疑応答の時間を設け、業種を越えた有意義な意見交換となりました。

2月15日、参加者：16人



国東会は今年で6回目。2年ぶりにリアル開催となりました

## 甲府支店

### 地域活性化を考える 講演会と意見交換会

ワインツーリズムによる地域活性化をテーマにしたオンラインセミナーを山梨県農業法人協会と共催。この分野の第一人者である一般社団法人ワインツーリズム代表理事の大木貴之氏が登壇し、異業種連携の重要性について話しました。

ワイナリーの若手経営者や旅行者、行政関係者が参加したパネルディスカッションでは、地域への思いや課題などについて意見を交換しました。参加者からは「地域の歴史などにも目を向け、お客さまとの会話のきっかけとしたい」などの感想がありました。

2月22日、参加者：60人



地域活性化への熱い思いが感じられました

## 金沢支店

### 3県合同の交流会で 地域ツーリズムを学ぶ

北陸3県(石川・富山・福井)の農林漁業者、食品関連企業などの相互交流や情報交換を目的とした交流会「フードネット北陸」を3年ぶりに開催。第1部のセミナーには株式会社エイチ・アイ・エスの小林健一氏が登壇し、「ツーリズムから見た北陸の可能性」と題した講演をおこないました。第2部では参加者による懇親会を実施。

参加者からは、「北陸のポテンシャルの高さを改めて実感できるような話で元気が出た」「観光業の情勢について大変参考になった」等の感想が寄せられました。

2月28日、参加者：70人



県境や業種も越えた交流の場となりました

## 静岡支店

### 地域の関係機関で連携し 海外展開セミナーを開催

牧之原市商工会が主催する海外展開セミナー(共催：ハイナン農業協同組合・公庫静岡支店)で、輸出に関心のある農業者・食品事業者向けに本店情報企画部の職員が講義しました。海外輸出の現状や国内取引との違いなどについての事例を交えた説明に対して、参加者からは、低コストの望ましい流通ルートや日本農産物の市場性についてなど踏み込んだ質問が寄せられました。また、セミナー終了後の個別相談にも複数の事業者が参加し、輸出に対する関心の高さが感じられました。

2月27日、参加者：20人



予定時間を超えるほど、質問の手が多く挙がりました



業務経験を交えた話に、参加者は真剣に聞き入っていました

## 山形支店

### 新規就農希望者に 農業経営について講義

山形県立農林大学校が新規就農希望者を対象に毎年開催している「新規就農支援研修」に、山形支店の職員が登壇。新規就農の事例を比較したり、営農類型別の採算性について説明したりするなど、これから農業経営を開始しようとする人が具体的なイメージを持てるように解説しました。また、公庫調査の結果など、独自の情報も紹介しました。

参加者からは、「金融機関ならではの情報を織り交ぜた講義で参考になった」などの感想が寄せられました。

5月12日、参加者：55人

## 名古屋支店

### 地元信用金庫勉強会で 農業融資について講義

豊橋信用金庫から依頼を受け、公庫との連携を進めていくにあたっての勉強会で、名古屋支店の職員3人が講師を務めました。

6日間にわたり開催されたこの勉強会では、協調融資の仕組みや農業者向け融資の特性について説明。その様子は豊橋信用金庫の全32支店にオンライン配信されました。参加者からは「農業分野における融資の知識が深まりありがたい」との声がありました。

5月22～29日、参加者：155人



農業融資についての質疑応答も熱を帯びました

## 盛岡支店

### マッチングの場を創出 いわて食の大商談会2023

岩手県や地域の金融機関などと「いわて食の大商談会2023」を共催。この商談会は岩手県内の魅力的な食材の販路拡大を支援することを目的に、2011年から毎年開催しています。

会場となった盛岡市内のホテルには、県内の農業者・漁業者・食品製造業者103社が出展。4年ぶりに試食も解禁されて参加バイヤーの数もコロナ禍前に戻り、全国から450人以上が来場しました。商談会の模様は民放3社で取り上げられ、注目度の高さがうかがえました。

6月13日



出展事業者も増加し、活気あふれる商談会となりました

## 新企画

### eMAFFで申請できる 公庫資金が増えました

農林水産省の電子申請システムeMAFFで、申請できる公庫資金が増えました。これまでは「農林漁業セーフティネット資金」のみのお取り扱いでしたが、2023年4月からは、「スーパーL資金」「青年等就農資金」「経営体育成強化資金」「農業改良資金」も加わり、オンラインで申請できるようになりました。

紙での管理が不要になる、ご自宅や事務所から申請できるなど、お客さまの事務負担の軽減につながります。ぜひご利用ください。



アクセスはこちら  
<https://e.maff.go.jp>

## eMAFFで申請できる公庫資金

2022年1月から

- ・農林漁業セーフティネット資金

2023年4月から対象に加わった資金

- ・スーパーL資金
- ・青年等就農資金
- ・経営体育成強化資金
- ・農業改良資金

## ご意見・ご感想をお寄せください

『AFCフォーラム』は農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気づきの点など、メール、FAX、電話、郵送で編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を進呈します。

メール [anjoho@jfc.go.jp](mailto:anjoho@jfc.go.jp)

※こちらのコードも  
お使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4  
日本公庫農林水産事業本部情報企画部  
AFCフォーラム編集部あて

◆春2号の「有機農業の現在地と針路」の特集記事を拝読しました。現在私は、茨城県石岡市の農政課で農業行政に携わっています。当市では、地元のJAが1997年に有機栽培部会を設立し、また、市とJAがそれぞれ有機農業者の研修の場を設けて、担い手の育成に取り組んでいます。

有機農業者は「消費者に安全安心でおいしい農産物を提供したい」と熱い思いをもって生産しています。私は日ごろから生産者が奮闘する姿を間近に見ています。現在それが反映された価格で有機農産物が販売され、それに合う所得を得ているのか疑問に感じることがあります。また、当市の生産者は子育て世帯が多く、出費が増える時期です。有機農業は持

続可能な農業としてSDGsに貢献する素晴らしい農業だと思えますが、生産者の所得を向上させなければ、持続的な農業経営の実現は難しいのではないのでしょうか。

国では、有機農業を拡大させるため、さまざまな支援策を講じていますが、今必要とするのは、消費者と生産者が一体となり、環境に配慮した有機農業への理解を深めていくことだと思えます。そのうえで、消費者には生産コストに見合う適正な価格で買ってもらい、お互い納得できるように価値観を変えていくことだと感じています。

(茨城県石岡市 大久保 和夫)

## 編集後記

④世界規模のパンデミックを脱し、最近では街中でも外国人を多く見かける。インバウンドの増加は日本の農林水産物・食品の魅力の世界に発信し認知度を高める絶好の機会だ。輸出の実現には、検疫規制や商流・物流など障壁が多いが、その先に大きな市場があることは間違いない。事業者のチャレンジを後押しする機関でありたい。(細谷合)

④「アロワールを語れない酒では世界で勝負できない」。南部美人久慈社長のお話には、輸出商品における原料の調達地域選定の重要性を再認識しました。そして同時に、「地域のもものは地域産の原料を使って当たり前、そしてそれは高品質」という諸外国に参入し、結果を求められる国内輸出産地のハードルの高さを痛感しました。(高雄)

④今やスーパーなど至る所で見かける焼き芋。最近は夏でも「冷やし焼き芋」として売られ、一年中楽しめるのは芋好きの私にもありがたい限りです。「変革は人により」では、焼き芋がここまで市民権を獲得するに至った経緯を教えてくださいました。海外でもヒットしているのは、産地の長年のご尽力の賜物なのだと得心しました。(大谷)

④「新・農業者」の取材当日、晴れていたらず美しいブドウ畑が目の前に広がるはずが、残念ながら大雨でした。そんななか、一緒に畑に向かった丸山社長は、雨はブドウの生育によくないのだと、心配そうに畑を見つめていました。生産者の方々が日々自然の厳しさと向き合い育てていくおかげで、おいしいブドウをいただけるのだと感じました。(澤田)

## AFCフォーラム 2023.8 夏1号

### ■編集

前川 紘輝 細谷 哲郎 高雄 和彦  
大谷 香織 澤田 真理 鈴木 晃子  
竹中 夕美

### ■編集協力

金子 弘道

### ■発行

株式会社日本政策金融公庫  
農林水産事業本部  
〒100-0004  
東京都千代田区大手町1-9-4  
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー  
Tel. 03(3270)2268  
Fax. 03(3270)2350  
E-mail [anjoho@jfc.go.jp](mailto:anjoho@jfc.go.jp)  
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

### ■印刷

株式会社第一印刷所 東京本部  
〒110-0003  
東京都台東区根岸2-14-18 第一根岸ビル

国産にこだわり

農

と食をつなぎます

4年ぶり  
となる  
東京での  
開催

# 第16回 アグリフード EXPO東京

国産農林水産物・食品の商談会

日時 2023年

8月23日(水)・24日(木)

10:00~17:00 10:00~16:00

会場 東京ビッグサイト  
東4ホール

オンライン商談会

2023年  
5月8日(月)~9月29日(金)



← 出展者情報など詳細はこちらから(公式HP)

[主催]

JFC 日本政策金融公庫

●お問い合わせ先 「アグリフードEXPO」事務局 エグジビジョンテクノロジーズ株式会社  
TEL:03-5775-2855/FAX:03-5775-2856 E-mail:agri@exhibitiontech.com